

「第5回環境教育・環境学習推進懇話会」議事録

- 1 日 時：令和6年3月8日（金） 15:00～17:00
- 2 場 所：横須賀市役所消防局庁舎3階消防第3会議室
- 3 出席者：桐谷座長、浅見構成員、内船構成員、遠藤雅弘構成員、下山構成員、
高橋構成員、奈良谷構成員、林構成員、堀井構成員、宮川構成員、（計10名）
- 4 事務局：環境部環境政策課（佐藤課長、畔柳主査、池田主任、笠井）
- 5 傍聴者：なし
- 6 その他：一部構成員がWebにより参加

◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 議題
（1）巡回環境パネル展について
- 3 報告
（1）令和6年度の環境教育・環境学習事業について
- 4 各構成員からの活動報告
- 5 その他

◆ 2 議題（1）巡回環境パネル展について

〔事務局からの説明〕

環境政策課の事業「巡回環境パネル展」について、その在り方を含め全面的に見直しを行いたいと考えているため、課題等と今後の在り方について、ご意見等をいただきたい。

■ 桐谷座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。
基本的に小中学校向けか。

■ 事務局（畔柳主査）

その通りである。

■ 桐谷座長

最近学校では、使われていなくなっているのか。
堀井構成員いかがか。

■ 堀井構成員

環境学習については、総合的な学習の時間でかなり多くの学校で実施はしている。
計画書が提出されているのだが、8割ほどの学校が取り組んでいるので、学習の場面が少なくなっているわけではないと捉えている。

■ 桐谷座長

このようなパネルを使った授業ではないということか。

■堀井構成員

その通りである。

■事務局（畔柳主査）

「よこすかのかんきょう」（副読本）は先生方に認知されているのか。

■堀井構成員

現場の先生がどのように活用しているかは分からないが、認知はされていると思う。

■事務局（畔柳主査）

電子媒体として提供することも可能である。

先生から希望がないと児童に届けるのは難しいが、児童の目に触れる機会があれば、「見てみたい、読んでみたい。」と思うのではないかな。

図書室に1冊ずつ、先生に1冊ずつ配布し、目を通した上で授業に取り入れるかの判断をしていただき、広げていきたいと思っている。

令和6年度にそのような取り組みを行うことについてご意見を伺いたい。

■堀井構成員

図書室の活用は推しており、情報ステーションとしての役割が年々強くなってきている。

図書室に司書が長い時間常駐することもあり、紙ベースで置くことには意味があると思う。

電子データと併用していくのが有効的だと思う。

■事務局（畔柳主査）

児童のタブレット等の電子教材に電子データを取り込むことはできるのか。

■堀井構成員

難しい。

■事務局（畔柳主査）

副読本の位置づけでライブラリーがあれば、先生が取り上げないとしても、図書館に行かずとも自分の持っているタブレットで見ることができるのではないかな。

■堀井構成員

タブレットに入っていれば見る機会はあると思うが、入れるものが決められている状況である。

子ども達の目に触れる機会が多ければ多いほど良いと思う。

■事務局（畔柳主査）

昨年度、構成員の方にご検討をいただき作成した「よこすかのかんきょう」が子ども達の目に触れないのは残念に思う。

■下山構成員

昨年度、「よこすかのかんきょう」を改訂する際に、子ども達がより見やすいようにイラストを入れたり、大事にするように名前の記入欄を設けたりした。

子ども達には、一人一冊ずつ配布されるのかと思っていたが、違っていたのか。

■事務局（笠井）

財務課の予算で小学校3年生の全生徒配布分は取れなかった。

以前は毎年改訂していたが、5年に一度の改訂になり3,000部印刷した。

市内の小学校3年生は約3,500人いるので、全員に配布は現状難しいため、希望制で配布している。

■下山構成員

余っているのはもったいないと思う。

■事務局（畔柳主査）

昨年度、構成員の皆さんに検討いただき、内容は分かりやすく良いものだと思うのだが、現在270部しか配布していない状況である。希望する学校が少ないのでどのようなアプローチをすれば先生に知っていただき、活用していただけるのか。

■林構成員

令和4年度に「よこすか環境教室」（環境教育指導者等派遣事業）で学校に伺った際に、子ども達が「よこすかのかんきょう」を持っていたので授業で使用したことがある。

■高橋構成員

総合的な学習の時間で「よこすかのかんきょう」を使うには何をすれば良いのか。

■堀井構成員

「総合的な学習の時間」は各学校によって内容が異なる。

比較的取り入れられているのは3年生の学習の発展で「総合的な学習の時間」で使う、または6年生の学習で使われることが多い。

計画の段階で先生の目に触れると、どの段階で子ども達に提示するかに繋がっていくと思う。

年度の始めの段階でいかに教員に周知していくかになると思う。

■高橋構成員

年度始めに「総合的な学習の時間」の教材に使用出来るので見てくださいと、各学校に数冊配布することは可能か。

目に触れる機会が増え使用することも増えると思う。

昨年度議論し作り上げたが、子ども達には分かりやすい内容になっている。

SDGsに紐づけしているのでSDGsの教育でも使用でき、非常に使い勝手は良いので、周知は大事だと思う。

■事務局（笠井）

今年度始めの総合的な学習の時間、教科外総会に出席し、「環境教育・環境学習ラインナップ」と「よこすかのかんきょう」を配布したが、希望校が少なかったので、更なる周知が必要と感じた。

■林構成員

「よこすか環境教室」の事前の打ち合わせの際には、今回要請されたのは全体の中で、どの位置づけなのかを必ず先生に聞いているが、綿密に計画が組まれており、この位置づけの中のこの部分をお願いしたいと依頼される。

「よこすか環境教室」は事前にしっかり準備をしてから臨んでいるので、依頼から実施まではある程度の日数をいただきたい。

■桐谷座長

綿密に計画が組まれているのは、環境に関する学習なのか。

■林構成員

環境だけではなく、「総合的な学習の時間」は学校により、ごみの問題を取り上げたり、地域の自然について取り上げたりしている。

学校によっては、校長先生が出てくるところもある。

学年のリーダー的な先生と事前に打ち合わせを行っている。

■桐谷座長

いろいろなアイテムがある中で、「よこすかのかんきょう」に結びつくアイテムはありそうなのか。

■林構成員

あると思う。

■桐谷座長

配布するのはもちろん大事だが、何と何を結び付ければ使用してもらえるのかがポイントだと思う。

■内船構成員

巡回環境パネル展については、「横須賀市環境教育・環境学習ラインナップ」11 ページに写真で載っている。

このパネルと「よこすかのかんきょう」は意外と共通点が多いと思う。

ある程度のボリュームがあるので先生も使用する壁が高いのではないかな。

林構成員から「よこすか環境教室」の派遣先で「よこすかのかんきょう」が配布されていたとの話があったが、「よこすか環境教室」と紐づけて、派遣があったら配布し、環境教育指導者に関連するページを示していただくことで、子ども達が目にし、全ページに展開していくのではないかな。

いきなり「よこすかのかんきょう」が配られて好きな情報を選ぶより、最初の扉が開けられるのではないかな。

環境パネルも同じく、教室や廊下に一気に並べるには結構なボリュームだと思う。

一覧を見るとパネルが19枚あり、小、中学校が約70校あるので1枚ずつローテーションで巡回した方が、縁が繋がるのではないかな。

「よこすかのかんきょう」も「環境パネル」も、まずは1部が触れる機会を作っていく切り口もあるのではないだろうかと感じた。

■堀井構成員

総合的な学習の時間教科外総会で配布したとのことだが、環境教育は理科や社会科にも紐づいていくところがある。

先生に資料提供したときに学校現場でどのように広がるかが把握できないところである。

いろいろな側面からアプローチしていく必要があり、理科や社会科でも声掛けを行い、環境パネルは1枚、2枚をとりあえず置くのも一つの方法かと思う。

■桐谷座長

「巡回パネル展」に関して事務局からは廃止の方向とのことだが、展示の方法を見直すなどの検討の余地があるのではないかな。

■事務局（畔柳主査）

ラインナップのターゲットを絞り、リニューアルし全校に巡回するとなると、誰が運ぶのか、設置するかななどの問題が出てくると思う。

パネルをリニューアルしても巡回する手段が煮詰まるようであれば慎重に考えていきたい。

また、教育現場でトレンドになっているもの、例えば「食品ロス」、「海洋プラスチックごみ」などのオファーがあれば絞り込み、リニューアルする方法はある。

作成し満足するのではなく、作成した後の方法について知恵をいただきながら更新を考えていきたい。

今年度2校から依頼があり、パネルの時代ではないのではないかな、更新する労力を考えて廃止し、別の方向にシフトし、体験型の学習を紹介するパネルを作るなど、パネルの自身を変え、周知方法を見直す時期が来たのではないかなと思い、議題に挙げた。

いただいたご意見を踏まえ、効果を考えながら再度検討していきたい。

■桐谷座長

資料1に、電子データの活用とあるが、学校で受け入れやすい状態であるのか。

パネルを運ぶのは手間が掛かるが、電子データで送る方法もあるのではないかな。

■堀井構成員

一人1台の端末があるので、繋がりがいできればより子ども達の目に入る機会ができるのではないかなと思う。

■浅見構成員

例えばホームページにPDF化したものを貼り、必要に応じてダウンロードをし、参考資料として使うことができると思う。

ホームページにアクセスできるように、学校へ活用の案内を送らないと学校では分からないかもしれない。

■事務局（畔柳主査）

周知の方法はまたご相談したい。

■高橋構成員

環境パネルの活用だが、横須賀市地域温暖化対策地域協議会と協力し6月の環境月間で環境パネルを展示し、イベントを行い、周知を図っているが、パネルは殆どの人が見ないで通り過ぎてしまう。

パネルの内容を周知するには、詳しい人が説明する段階を踏んでいくことが大事だと思う。

置いてあるものを読むのはハードルが高く、理解は深まらないので、そのことを含めて活用方法を考えておくと、より伝わると感じる。

例えば会議でメインセッションとポスターセッションがあるが、ポスターセッションの場合、説明員がついて説明する。

説明員がいないと通り過ぎてしまうのと同じだと思う。

パネルはプッシュ型の活用ができると良いと思う。

■宮川構成員

「学区の自然体験事業」は講師を派遣するのだが、「よこすかのかんきょう」や「環境パネル」は講師が行っている授業と重なり、参考になる部分が多いと思う。

事前の打ち合わせの際にこれらを見ていただき、授業で使用したり、体験事業後に学ぶ教材として使うことができるかもしれない。

また、環境パネルはフィールドワーク後の座学で使うことができると思う。

■事務局（畔柳主査）

内容は各担当課にお願いすることになり、紐づけて活用することは有効的であると感じたので、個別に相談したい。

■遠藤構成員

生涯学習センターでは、市民講座の空き時間にパネルやサークル紹介などの案内を見ている人がおり、他の所では素通りするかもしれないが目に触れることはある。

生涯学習センター5階に展示するスペースがあり、他課では期間限定で展示しているケースがある。

「環境パネル」は子ども向けとのことだが、例えば猿島のパネルを置くことは可能である。

また、「よこすかのかんきょう」を何部かいただければ、生涯学習のリーフレットを置いてある場所に置くこともできる。

リーフレットはいつの間にか無くなっているケースもあり、人の目に触れたり、市民大学で環境のことを扱ったりすることもあるので、ダイレクトに繋がるわけではないが、関連付けできることがないかと思った。

■事務局（畔柳主査）

相談させていただきたい。

■桐谷座長

活発なご意見をいただいた。

活用の機会がまだまだあると感じたので、事務局は色々な活用の仕方の検討を進めていただきたい。

◆3 報告（1）令和6年度の環境教育・環境学習事業について

〔事務局からの説明〕

令和6年度に環境政策課が実施予定の環境教育・環境学習推進事業について報告した。

併せて、市の各部局の構成員からも令和6年度の環境教育・環境学習関連事業について報告し、情報共有を行った。

令和6年度 他部局の環境教育・環境学習について

■宮川構成員

学区の自然環境体験事業、自然観察会に関連して試行で行おうとしているのが、自然観察会では身近な自然にもっと関心を持ってもらいたい、自ら自然を観察してもらいたいとのことで、調査票を作り博物館に展示していただいている。

豊島小学校に協力をいただき、平和中央公園で環境授業を学芸員中心に行う際に調査票を使用し、植物や昆虫をスケッチし調査し、博物館に展示する。

■堀井構成員

教育指導課の事業として、環境学習を含めた子ども達の夏休みの自由研究の審査会「よこすか子ども科学賞」を来年度も開催する予定である。

かなりの点数が各学校からあげられ、良い作品を選んでいく。

また、SDGsの分野が強いが、子ども達が夏休みに生活の中で工夫して作った作品やエコな作品を審査し展示する「子ども発明展」を開催する。

いずれの作品も内船構成員が行われている「みんなの理科フェスティバル」で展示し、表彰式を行う予定である。

■遠藤構成員

市民大学で環境に関する講座が毎年2、3入ってくるが、現在の時期は次年度の講座の講師を探している。

昨年度の例だと、市民大学は前期講座、後期講座があるが、「三浦半島に生きる 生産者のための食の現場」として、農園や漁業関係者に話を聞きながら横須賀の環境を考える講座を開催した。

後期講座では気象予報士を招き天気の話をお願いしたが、最近では気象全般よりも横須賀に

絞ったところに関心が高まっている。

市民大学の講座は、大学の先生などの専門家をお呼びし、深く大学の講義のように行うが、そこで学びが完結するのではなく、他の学びの場やフィールドワークのような現場に上手く繋がっていないのが環境に限らず全般の悩みである。

社会教育の関係でいうと、専門的にその部局の所管業務に特化した講座を行っている健康部などがあるが、内容に関連する部分がある市民大学で扱っている講座と他部局で行っている講座などがなかなか繋がっていかないので上手く繋がられないかと思っている。

環境に関する講座の際に「よこすかのかんきょう」を配布することは出来るかもしれない。

幅広い分野の講座を開催している中で、環境に関する分野は2、3つの予定である。

生涯学習センター5階で市の関連する部局のパネル展示は生涯学習財団に連絡をいただき空いていれば利用できるのではアピールする場の一つとして利用していただきたい。

文化財係が千代ヶ崎砲台跡で時々イベントを行うので、ブースを設けたり、アピールできるかと思う。

まなびかんまつりを次回は令和7年に開催予定だが、来場者が目にする場所を提供することはできると思う。

■浅見構成員

内船構成員に講師をお願いし、5月に蚕をはじめとした昆虫の話をしていただいている。

小学校3年生の多くが蚕を育てるので、モンシロチョウも含め昆虫の話をしていただき、環境に触れている。

小学校5年生はメダカを扱うので、6月にメダカを通して命の大切さや生き物とのふれあい、飼育の仕方についての研修講座を実施している。

7月は自然・人文博物館 萩原学芸員に協力いただき、令和5年は走水小学校を会場に、海の生き物について学び、令和6年度は天神島臨海自然教育園で環境教育に触れながら海の生き物について学習する。

7月または8月に環境政策課とタイアップし、教員向け環境学習講座を開催する。

12月は自然・人文博物館 柴田学芸員をお願いし、横須賀の環境に含めながら地層について学習する。

2年前に自然・人文博物館の学芸員に来ていただき、リーフレットを渡したところ、「学芸員を呼ぶことができるのか」と、先生の驚きの声があった。可能であれば、教育研究所にリーフレットをいただき、配布し宣伝できるかもしれない。

小学生、中学生を対象に「土曜科学教室」を年8回開催しており、先日、日産自動車(株)にも講師で来ていただいた。

環境に関わる講座を行っているので、配架出来ると感じた。

教員向け環境学習講座で「よこすかのかんきょう」を配布したのか。

■事務局（畔柳主査）

配布していない。

■浅見構成員

教員向け環境学習講座はとても人気のある講座で、環境教育に関心を持っている先生が多いので、ぜひそのような場で活用をPRしたらいいか。

■事務局（畔柳主査）

ぜひ、配布したい。

■内船構成員

自然・人文博物館では、教育普及活動の展示や講座を行っており、講座や観察会は自然系、人文系であり、自然観察会と名を打っているところでは横須賀の自然を体験していただく機会を作っている。

先ほどから触れていただいているが、学芸員が他部署と協力し講師としてお手伝いを行っている。

みんなの理科フェスティバルは毎年1月下旬に実施しているが、今年度で7年目を迎える。

第1回目を開催するに当たり、この環境教育・環境学習推進懇話会がきっかけとなったところもある。

桐谷座長に「このような企画を行いたい、横須賀市の研究所や機関で協力いただけないか。」と、話があり、その後、教育指導課で小、中学生の研究活動や理科工作を集めて表彰式を行った。

また、横須賀高校をはじめとする高校、大学生、大学院生、近隣の大学にも出展していただき、行政に関しては自然環境・河川課に学びの成果を発表していただき、都市戦略課とJAMSTECが行っている「横須賀海洋クラブ」の活動の発表など、いろいろな部門の方が交流していただけるプラットフォームを作っている。

理科フェスティバルと言うと、「理科」と言う言葉に引っ張られがちだが、広く科学的な探求活動と捉えており、子どもから大人まで理科で繋がるコンセプトで行っている。

小学生だけではなく、保育園、幼稚園も歓迎し、「理科ではない」ことにも相談にのる。

また、環境問題は理科と関係がある部分もあり、環境ともコラボしたいと思っている。

理科フェスティバルの中で、教育指導課とは表彰式、自然環境・河川課とは講演会を行っている。

会場は自然・人文博物館プラス横須賀文化会館で、興味がある方の意識を高めるものにしたと思っていますので、環境教育・環境学習懇話会で繋がっている皆さんと何かできないかと考えている。出展団体を随時募集している。

■事務局（池田主任）

市として計画している令和6年度の事業を発表していただいた。

環境教育として今後、各課とどのように連携していくか、取り組みを進めていきたい。

■桐谷座長

ただ今の報告について、ご意見やご質問はあるか。

■事務局（池田主任）

環境教育指導者の構成員、保育園の下山構成員のご意見を伺いたい。

■下山構成員

今年度、「よこすか環境教室」（海のプラスチックごみのこと）と「子どもごみ教室」を依頼

した。

ごみの分別は寸劇を交えて子ども達にわかりやすく、また話を聞くだけではなく海をブルーシートに見立てゲーム感覚で開催し、帰りには牛乳パックで作った紙トンボ、折り紙で作った切り絵をいただいた。

保育園は遊びが学びだと思っており、このような新鮮な教室は申し込みができるならたくさん申し込みたいと思っている。

今年度、初めて「ごみ収集車派遣」をした。子ども達は、ごみ収集車が大好きで、大人も楽しめた。

保育園で開催できるものがあれば、ぜひ申し込みしたい。

海洋プラスチックのポスターをいただき掲示したが、保護者より子どもが見える場所に貼りたい。「絵が上手い」など子ども達の会話が発展する。

全てが環境だけのことではないが、何かがきっかけで子ども達が会話をし、不思議と思うことが保育園では大事だと思う。

学校に入るまでのきっかけとしていろいろでき、有難く思っている。

■事務局（畔柳主査）

ポスターはお願いすれば掲示していただけるのか。

■下山構成員

パネルは危ないが、中の用紙や不要な絵をいただきたい。

家から持ってきた水筒の水を午前中に捨て、入れ替えるために列ができるが、その場所に交通安全などのポスターを貼ると会話が盛り上がるので貼り替えている。

環境教育でやっていただいたことをまねて絵にしている子どももいるので、何事もきっかけかと思う。

■桐谷構成員

小さいお子さんは感受性が豊かであるので、いろいろな物に触れるのは大事であり、特に絵は情報量が多い。

■林構成員

雨の時期は猿島の案内が短く時間が余ってしまうので、「猿島」の環境パネルを6月に貸し出して欲しい。自然環境・河川課からも借りている。

猿島ガイドが38人いるが、新しく入った6期生は知識が浅いので活用したい。

■高橋構成員

横須賀市地球温暖化対策地域協議会に所属し活動しているが、理科フェスティバルのコラボで地球温暖化について議論できるかと思う。

事務局と相談し、来年度何ができるかを検討するが、間口が広がるアイデアのヒントをいただいた。

横須賀市地球温暖化対策地域協議会では、環境ポスターコンクールを協賛し「横須賀市地球温暖化対策地域協議会賞」を出している。

夏休みに「挑戦！ゼロカーボンコンテスト」を募集し、小、中学生の皆さんに温暖化対策で

工夫したことについて提出していただき、12月に表彰式を行った。

「緑のカーテンコンテスト」は市民対象で、ゴーヤなどのつる性植物を使い緑のカーテンを作ることにより、部屋の中が涼しくなりエアコンの使用量が減りエコに繋がるので、来年度13回目になるが、続けていきたいと思っている。

2階まで緑のカーテンで窓を埋め尽くすような素晴らしい作品があるので、展示する場があると良いと思う。ゴーヤが何十本も実り、近所に配っている報告もあるので、皆さんに見ていただきたいと思う。今後も続けていき、立派なカーテンが育つことを期待している。

「よこすかのかんきょう」12ページ右下のSDGsのマークが間違っているのではないか。

■事務局（畔柳主査）

確認する。

■奈良谷構成員

保育園などの話をなかなか聞くことがないので、聞けて良かった。

■桐谷座長

ご意見をたくさんいただいたので活用していただきたい。

■事務局（畔柳主査）

活用し、結果については次回報告する。

「環境教育指導者等派遣事業」は今年度14件と報告したが、決して多いとは思っていない。学校にテーマの提示をしているが、依頼のテーマに偏りがあり、今のトレンド、興味にあったテーマなのかが課題である。

学校の教育現場で「このようなテーマがあれば依頼してみたい」等のアンケートを先生に取ることは可能か。

■堀井構成員

タイミングを見て忙しい時期以外または、担当者が集まる機会に来ていただきアンケートを取ることはできるかもしれない。

■事務局（畔柳主査）

先ほど、座長との打ち合わせの際に、「現場の声は大事であり数が少ないと言っているだけでなく、ニーズに合わせたものを提供できているのか。」と、話をいただいた。

調査はまだ行っていないので機会があれば行いたいので相談させていただきたい。

企業は環境教育・環境学習を行いたいところが多い。

例えば、家庭用油で飛行機を飛ばすプロジェクトを行っている企業と付き合いがあるが、壮大なプロジェクトを行っている企業があることを子ども達や大人に知ってもらい、夢があり、環境にも良いところから自分の将来に繋げて欲しいとの企業の思いから横須賀市に相談があった。

その企業は環境教育のプログラムを持っており、他都市の小学校で授業を行ったところ、子ども達が自分で考え、校内のイベントで天ぷら油を集める行動を起こし企業に提供し、行動変容に繋がったとの話を伺った。その企業には環境教育指導者登録のお願いを行っている。

子ども達が知り、自分で考えるきっかけになり、素敵なことだと感じた。
企業と先生との間に入り紹介し、橋渡しができれば私たちのやりがいにも繋がる。
事業者の開拓はこちらでも行っていくので、現場の先生からもニーズをいただき、アプローチできればと思うので、改めて相談させていただきたい、

◆4 各構成員からの活動報告

■桐谷座長

時間の都合により割愛する。

◆5 その他 事務局から事務連絡

■事務局（畔柳主査）

事務連絡が3点ある。

1点目は、本日の議題について追加のご意見等があれば、3月15日（金）までに事務局へご連絡をいただきたい。

2点目は、北口駐車場駐車券の処理について。

3点目は、第6回環境教育・環境学習推進懇話会の開催及び構成員の任期について。

次回は令和6年6月を予定している。「環境教育・環境学習推進懇話会」第1期構成員の任期は3月末までとなり、本日が任期中、最後の会議となる。4月からのご参画については資料「次期構成員の就任について」により、3月27日までにご提出をお願いします。後日、事務手続きの書類をお送りする。

■桐谷座長

以上をもって、第5回環境教育・環境学習推進懇話会を終了する。